



国立公園における滞在体験の魅力向上 について

インバウンド再開を踏まえ、国立公園満喫プロジェクトの更なる展開として、民間活用による国立公園利用拠点の面的な魅力向上に取り組み、美しい自然の中での感動体験を柱とした滞在型・高付加価値観光の推進を図る。

- 2023年1月～6月に有識者検討会を開催。民間提案を取り入れた国立公園ならではの感動体験を提供する宿泊施設を中心とした利用拠点の面的魅力向上の方向性や進め方を検討し、「宿舎事業を中心とした国立公園利用拠点の面的魅力向上に向けた取組方針」を策定。

国立公園の利用の高付加価値化

- 国立公園の魅力的な自然環境を基盤とし、地域の歴史・文化・生活を踏まえた、本物の価値に基づく感動や学びの体験を提供し、利用者に自己の内面の変化を起こす。
- 関係者が、持続可能で責任ある観光の姿勢を共有し、保護と利用の好循環を目指す。

滞在体験の魅力向上のための先端モデル事業の対象とする4つの国立公園を選定。

| 国立公園名 | 選定のポイント |
|--------------------|-------------------------------|
| 十和田八幡平国立公園（十和田湖地域） | 利用拠点の再生による新たな魅力づくり |
| 中部山岳国立公園（南部地域） | 山岳地域の利用の高付加価値化を含めた広域連携 |
| 大山隠岐国立公園（大山蒜山地域） | 日本の伝統的自然観や歴史文化を踏まえた自然体験の拠点づくり |
| やんばる国立公園 | 世界自然遺産登録地域周辺における自然を活用した地域活性化 |

※選定の考え方

以下の4点を踏まえ、将来的な他地域への展開も見据えて環境省が選定

- ①広域的な利用推進の観点があること
- ②国が取組を調整・実施する意義や効果が見込まれること
- ③地域の合意形成の枠組み、利用の行動計画、環境省の体制等の基盤があること
- ④滞在型・高付加価値観光を行う具体的な利用拠点の候補を含むこと

- 選定した対象公園において、該当公園の利用の高付加価値化に向けた基本構想を検討。基本構想の検討にあたっては、民間提案を募集し、推進枠組みを検討。
- 推進体制の構築状況や国立公園としての滞在型・高付加価値観光を進めるポテンシャル等の観点から、2024年度から集中的に取り組む利用拠点を選定。

2024年度～

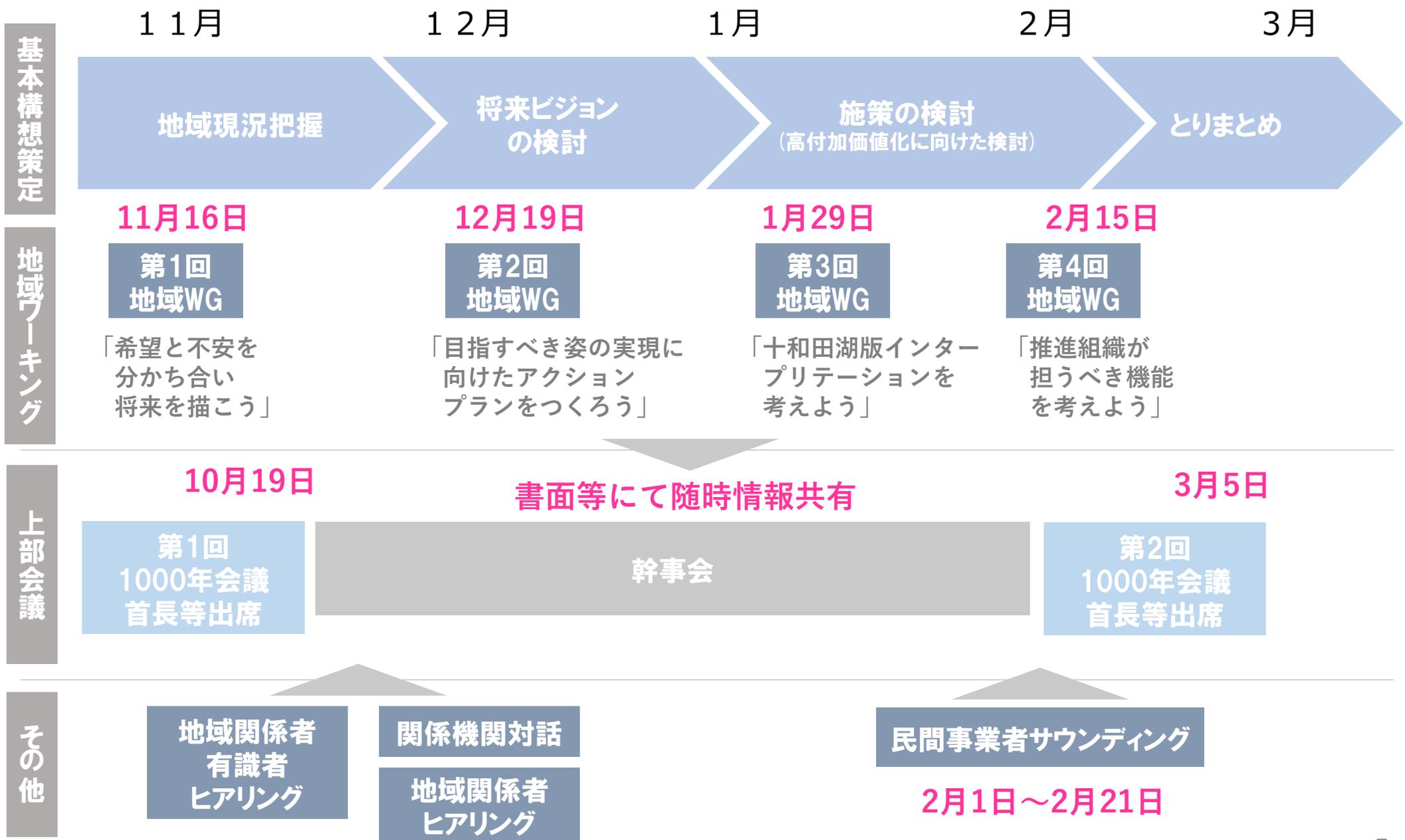
民間の発想を活かした滞在体験の魅力向上をパッケージで実施

(イメージ図)



国立公園における滞在体験の魅力向上
先端モデル事業 対象公園

十和田八幡平国立公園十和田湖地域の取組

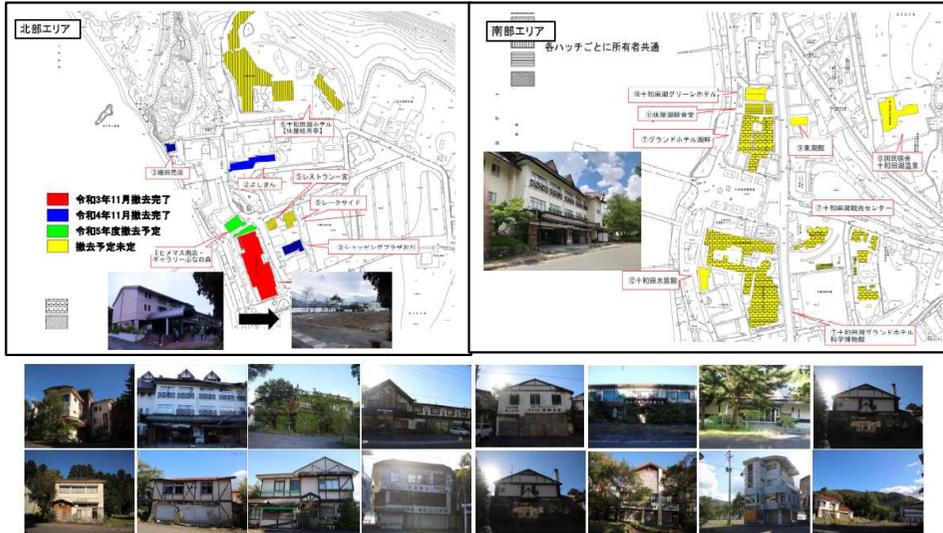


十和田湖地域の課題整理①

休廃業施設の増加・跡地利活用方針

休屋地区では平成20年ごろから休廃業施設が増加しており、撤去が進むものの現在でも点在しています。令和3年度以降、継続的に廃屋の撤去を進めています。跡地の利活用や全体の土地利用の計画は検討の途上です。

◆休屋・休平地区の休廃業施設



冬季の公共交通アクセスがない・冬季閉鎖によるアクセス性の低下

新幹線駅・空港等の交通拠点からの二次交通として、JRバスが運行していますが、冬季(11月～4月)は運行が限られます。

5つの道路が接続しており、複数の周辺市街地へ車で2時間以内でのアクセスが可能です。

冬季(11月～4月)は、通行規制のため奥入瀬溪流経由と発荷峠経由の2路線のみとなり、平常時に比べアクセスに時間を要します。

◆冬季閉鎖状況



※青森県道路情報サイトより引用

人口減少・担い手不足

十和田湖地域では、人口が減少しており、令和2年時点では3地区合計で363人・182世帯となっています。十和田市全体で高齢化が進行しており、十和田湖地域も同じ傾向にあると考えられます。

◆人口推移



※十和田市/住民基本台帳・小坂町提供データ

生活基盤サービスの縮減

◆医療施設

十和田湖地域には、十和田湖市立十和田湖診療所が設置されており、内科・外科の週3回の診療が行われています。

十和田湖地域は二次保健医療圏のうち、青森県側は上十三地域に、秋田県側は大館・鹿角地域に属していますが、入院救急医療先にはいずれもアクセスに1時間以上を要します。



◆教育施設

生徒数の縮減により、平成22年に小坂町立十和田小学校が閉校し、平成30年に十和田市立十和田湖小学校が校舎閉舎、現在は十和田湖中学校の校舎にて小学校・中学校を併用しています。



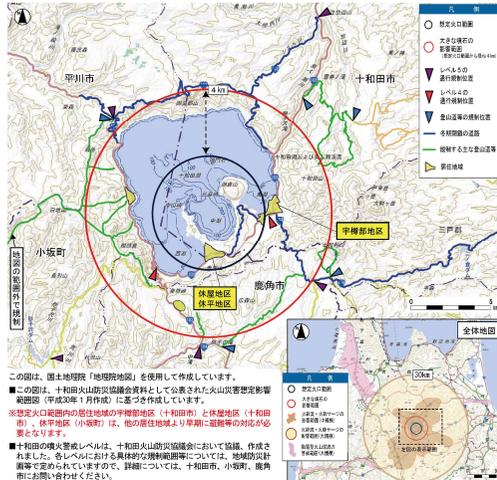
十和田湖地域の課題整理②

噴火リスク

十和田湖地域は、小規模噴火に限っても、想定火口範囲・大きな噴石の影響範囲に一部含まれており、噴火の可能性が高まった場合には、避難や通行規制が行われます。

特に想定火口範囲内の居住地域の休屋・休平地区、宇樽部地区は、ほかの居住地域より早期の避難が必要となります。

◆噴火の影響が及ぶ可能性のある範囲・規制範囲

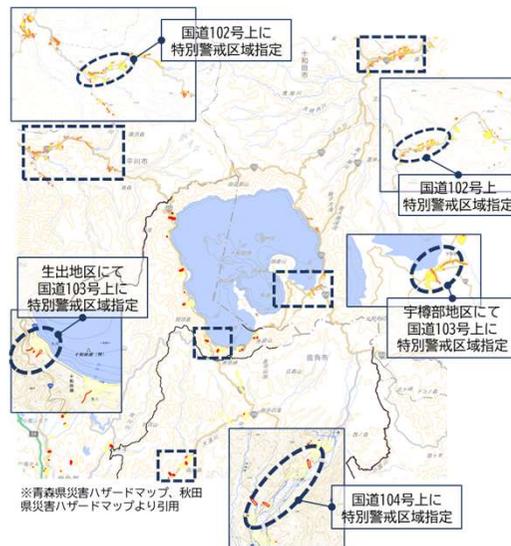


※十和田火山防災協議会資料より引用

道路の寸断リスク

十和田湖地域へ接続する道路すべてにおいて、特別警戒区域に指定されている箇所を有しており、豪雨等により寸断可能性が高い状況にあります。

◆土砂災害ハザードマップ



来訪者数の減少

奥入瀬・十和田湖にはコロナ以前において年間100万人以上が来訪しています。十和田八幡平国立公園への来訪者は長期的に減少傾向にあります。

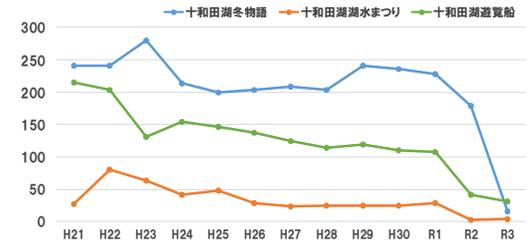
十和田湖冬物語には200千人を超える来訪者があるほか、十和田湖遊覧船の乗客数は減少傾向にあるものの、100千人を超えています。

◆来訪者数（千人）



※青森県観光入込客統計

◆イベント来訪者・乗船者数（千人）



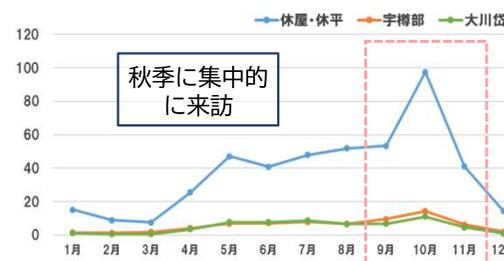
※青森県観光入込客統計

季節偏重・滞在時間の短さ

十和田湖地域への来訪者は10月が最も多く、次いで9月となっており、秋季に集中し、冬季が少ない傾向にあります。最も少ない月は3月で、休屋・休平の来訪者は約10千人となっています。

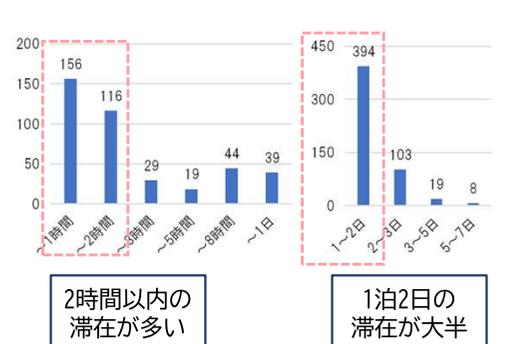
十和田湖地域の滞在時間別の来訪者数は、1時間以内の来訪が最も多く、概ね2時間以内となっており、滞在時間が短い傾向にあります。日別では、1泊2日の滞在が大半です。

◆季節別の来訪者数（千人）



※KDDI「location analyzer」2022.1~12

◆滞在時間・日別の来訪者数（千人）



2時間以内の滞在が多い

1泊2日の滞在が大半

地域WGの構成メンバー

行政

青森県上北地域県民局地域連携部、秋田県鹿角地域振興局総務企画部、十和田市商工観光課、十和田市教育委員会、十和田市まちづくり支援課、鹿角市産業活力課、小坂町観光産業課、小坂町総務課

地域関係団体

(一財)自然公園財団、(一社)十和田湖国立公園協会（宿泊部会・商店部会・交通部会）、(一社)十和田奥入瀬観光機構、(一社)秋田犬ツーリズム、(株)かつの観光物産公社、十和田商工会議所青年部

地域事業者

(同)ガイドハウス權、(同)ネイチャーセンス研究所、遊部屋十和田、(株)soobox、十和田湖伝説の伝え方を考える会

地域住民

宇樽部町内会長、休屋町内会長、休平自治会長、大川岱自治会長
宇樽部地区住民、休屋地区住民、大川岱地区住民

有識者等

青森銀行ビジネスパートナー部、(株)風景屋

各回の参加人数

第1回：30人 第2回：24人
第3回：23人 第4回：20人



序論

1. 構想の目的
2. 対象とする地域
3. 構想の位置付け
4. 構想の検討体制

基本構想

1. 利用の高付加価値化に向けた課題
 - (1)自然・文化資源等の課題 (2)くらしの課題
 - (3)観光・なりわいの課題
2. 利用の高付加価値化に向けて地域が目指す姿
 - (1)前提となる考え (2)地域の目指す姿
3. 利用の高付加価値化に向けた施策の方向性

基本理念 (1)自然・景観・文化の持続性

 - (2)くらしの持続性 (3)なりわいの持続性
4. 利用拠点の磨き上げに向けた検討
 - (1)ゾーニングの設定
 - (2)磨き上げを行う利用拠点の特定と方向性
 - (3)十和田湖版インタープリテーション全体計画
5. 宿泊施設の方向性
 - (1)宿泊施設の担う役割
 - (2)高付加価値化のための宿泊施設の方向性
6. 推進体制・スケジュール
 - (1)推進体制 (2)スケジュール

ヒアリング
既存資料等の整理

第1回地域WG

【希望と不安を分かち合い将来を描こう】
地域の魅力や課題と目指す姿を議論

第2回地域WG

【目指す姿の実現に向けたアクションプランをつくろう】
目指す姿を叶えるための施策イメージを議論

第3回地域WG

【十和田湖版インタープリテーションを考えよう】
IP伝えるべき魅力、どう感じてほしいのか等、
素材と方向性を議論

第4回地域WG

【推進組織が担うべき機能を考えよう】
推進組織がどんな機能を持ち、地域で何を準備していくべきかを議論

地域の課題

感動体験の基盤となる地域の自然・景観・文化の価値の共有や活用の不足が観光・なりわいの課題やくらしの課題につながっている

目指す姿：十和田湖 北奥（ほくおう）をいつくしむ 365日

基本理念

- ① 自然環境の保全を最優先事項として行動します
- ② 3つの持続性を相互に高めあい、自然への再投資を念頭に行動します
- ③ 地球規模の持続性に配慮して行動します



利用の高付加価値化に向けた施策の方向性

感動体験を通じて
その光が再投資



なりわいの持続性

過去の100年に敬意をはらい、現在・未来へつながるなりわいを形成します。
特に観光業では、十和田湖でしか味わえない感動体験により、いつくしみの心を育み、行動変容の契機を創出します。また、国立公園の核心地としてサステナブルな観光地づくりを目指し、地域の持続性につなげます。

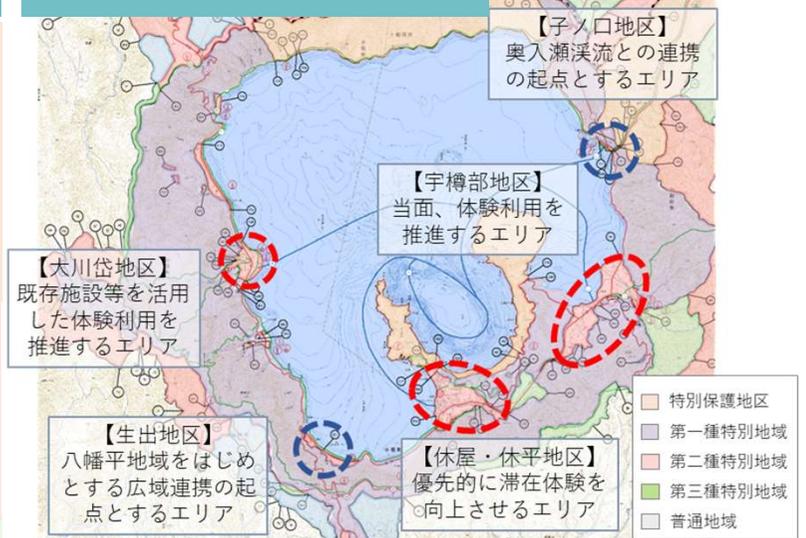
くらしの持続性

地域住民は十和田湖の守り人であり、「自然・景観・文化」「なりわい」は地域のくらしがあって成り立つものです。過疎地としてのハードルを飛び越え、自立的で結束力の強い、持続可能な地域づくりを進めます。

自然・景観・文化の持続性

一度壊れた自然は元にもどることはありません。自然環境の保全を最優先事項として、1000年先も人々のいつくしむ心を育む十和田湖地域の自然・景観・文化を残します。また先人たちの自然に対する畏怖の念を正しく語り継ぎ、後世への財産とします。

ゾーニング・利用拠点



休屋・休平地区では今後も廃屋の撤去が進むことが見込まれており、従前の議論を踏まえた効果的な土地の利活用のため、当面、高付加価値化に向けた宿泊施設の誘致する利用拠点として同地区を想定

磨き上げの方向性

- ① マスタープランの検討を通じて、利用拠点における土地の利活用方針・求める宿泊施設の姿を具体化
- ② インタープリテーション全体計画の検討を通じて、価値の認識、ストーリー（地域WG素案：湖、信仰、ひめます）を深化
- ③ 十和田湖1000年会議、地域WGでの連携の継続・強化とともに、新たな推進組織を検討

| 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 | 令和10年度～ |
|---------------------|--------------------|------------------------------|------------------------|---------|
| マスタープラン 検討・策定 | 誘致場所・ 公募要件の決定 | 宿舎事業者 公募・決定 | 詳細設計・ 権利制限 関係手続き | 建設着工 |
| ↑ 継続的なサウンディング | | MPと連携した上質化整備 | | |
| 十和田湖1000年会議 | | | | |
| インタープリテー ション全体計画 | 人材育成・アクティ ビティ造成 | アクティビティ、体験提供 施設運営、プロモーション | | |
| ↑ 地域WG | | 推進組織による地域経営 | | |
| 推進組織の検討・設立 | | | | |